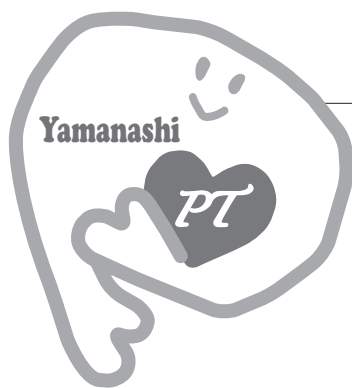




平成 29 年 3 月

一般社団法人 山梨県理学療法士会会報誌

SUPPORTERS

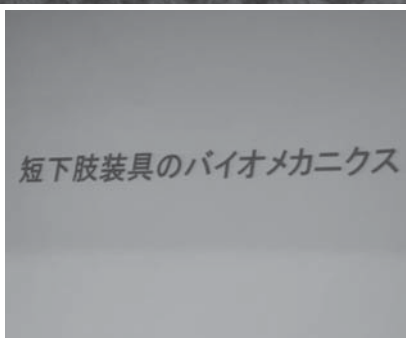
サポーターズ No.149 2017 春号

一般社団法人

山梨県理学療法士会ホームページ <http://ypta.jp/>

会員数 838 名 施設数 125 (H29.2.10 現在)

○第20回山梨県理学療法士会学術集会



Contents

特集 「第20回山梨県理学療法士会学術集会」報告… 2～3

●山梨県理学療法士会学術集会の演題発表を終えて
(演題発表者報告)

各部活動報告… 4～7

●企画研修部 ●学術研修部 ●スポーツPT部
●地域連携部 ●医療保険部・介護保険部
●新人教育研修部 ●委託講習会部

お知らせ… 8～9

●公開講座部 ●委託講習会部 ●事務管理局

リレーエッセイ Part 31 … 10～11

原稿募集… 10

編集後記… 11

「supporters (サポーターズ)」とは・・・

我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、『支える人』という意味の supporter に複数形の s を加え、supporters: 支える人たち(造語)の意味です。



「第20回山梨県理学療法士会学術集会」報告

学術集会部長 菊池 信

平成29年1月28・29日(土・日)に第20回山梨県理学療法士会学術集会が桃源文化会館で開催されました。今大会は20周年記念大会ということもあり、従来よりも日程・内容を拡大して企画し、準備をすすめてまいりました。特別講演を初日と2日目の両日に設け、大会記念講演、オープニングセミナー、モーニングセミナー、教育講演、新人教育研修と充実したプログラムを提供できたと感じています。

特別講演は、初日に国際医療福祉大学大学院の山本澄子先生を、2日目には長崎大学大学院の沖田実先生をお招き致しました。山本先生には昨年度、山梨開催の関プロ学会でもご講演して下さいました『片麻痺者への装具の適応』を、さらに臨床に即した内容でお話いただきました。沖田先生には6年前当学会特別講演での『拘縮のメカニズム』をさらに発展させた内容に加え、『拘縮に対するリハビリテーション戦略』についてお話していただきました。今回お二人の先生方の講演内容は、臨床家の多い山梨県士会員にとって基礎と臨床応用をつなげ、明日からの臨床実践への一助となることと思います。

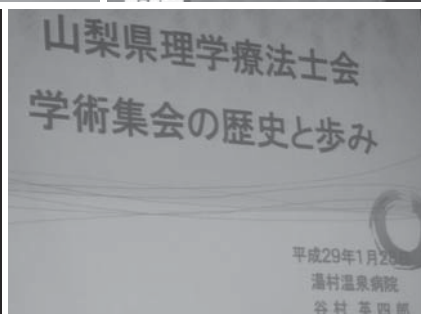
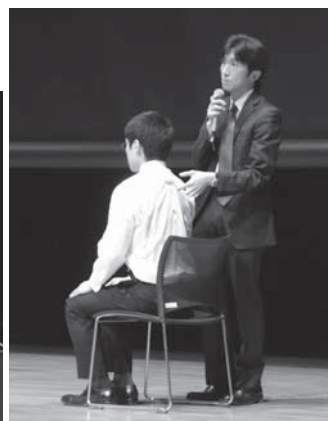
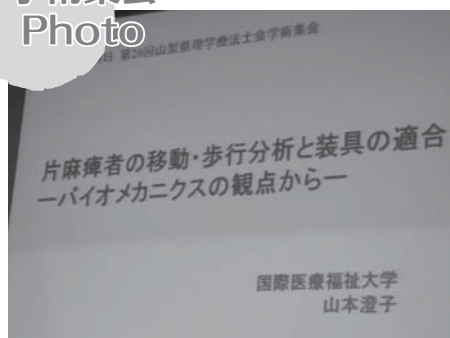
また大会記念講演では、第1回学術大会開催当時、県士会会長を務めておりました谷村英四郎先生と現会長の小林伸一先生にご講演いただき、学術大会のこれまでを振り返り、これからの学術集会の役割や位置づけをお二人の先生に示していただきました。小林先生は、「これから山梨県士会を背負って立つ若い県士会員の皆様には、日々の研鑽と現状を把握するためのアンテナを張ることが重要である」と述べられました。学術集会部といたしましても、皆様の発表の機会を提供し、後押しし続けていくことが役目であると強く感じました。このことが‘学会、延いては理学療法の明るい未来への糧’となることが出来れば幸いです。

今大会の参加者数は過去最多の304名(会員300名、非会員4名)を数えました。20回の節目の大会で多くの参加があり、企画・運営スタッフ一同、ほっと胸を撫でおろしております。レセプションも盛況のうちに終了し、20周年を良い形でお祝い出来たと思います。これもひとえに会員の皆様のご協力のおかげであると感じています。演題発表をしてくださった皆様、講師・司会・座長をお引き受け下さった皆様、スタッフとして運営して下さいました皆様、職場を守って下さった皆様、すべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

次回は、第2回リハビリテーション専門職同学術大会が12月2・3日(土・日)に開催予定です。

第21回の県内学会でもあるこの大会を盛り上げていけるよう、
参加・演題登録等、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

学術集会 Photo



学術集会で演題を発表させていただき、今回が初めての演題発表だったので研究のデザインを決めることや抄録にまとめるときに戸惑うことが多かったです。栄養と歩行についての研究をしましたが、「自分自身が何を知りたいのか」「臨床現場でどんな疑問を持っているのか」をはっきりさせて研究の方向性を決めることが難しく、先輩方にアドバイスをいただきながら研究を進めていきました。今回、数ヶ月間一つのことに對して自分の考えをまとめるという作業の大変さと重要さがわかりました。発表をした際には、自分が考えている内容とは違う視点の質問もあり、今後の課題を見つけることができ、更に他の演題からは、研究のデザインや内容、プレゼンする方法なども参考になりました。今回の経験を活かして今後とも臨床、研究とも行っていきたいと思います。

研究する際に相談させていただいた先輩方、学術集会を運営する係の皆さま、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



各部活動報告

企画局 企画研修部発

□ 第1回研修会「クリニカルクラークシップにおける課題・再考」 ～応用行動分析学を用いた学生・新人の指導方法について～

- 講師：帝京科学大学 東京理学療法学科 准教授 豊田 輝 先生
- 日時：平成28年11月16日 19:00～21:00
- 会場：大木記念ホール 参加人数：42名

今回研修会では、参加者から事前に新人教育や学生教育において悩んでいることや困っていること等についてご意見を頂き、グループワークを実施せず講演中心で行いました。研修会内容としては昨年度の研修会をより実践的な内容にしたご講演で、PT臨床実習における現状と課題からクリニカルクラークシップの再考を説明して頂きました。

その後、応用行動分析学を用いて事例を通して解決方法の紹介があり、参加者からは「大変勉強になった」「今回は一連の流れで話をして頂き解り易かった」「もっと早くこの研修に参加していれば良かった」「事例を通してもっと詳しく知りたい」との声を頂きました。参加人数も例年と変わらずの参加でした。

次回、第2回の企画研修部主催の研修会は3月上旬の予定です。

企画局企画研修部長 丸 茂 高 明

- 問い合わせ先：企画局企画研修部 丸茂高明
(甲州リハビリテーション病院リハビリテーション部内 TEL 055-262-3121)

学術局 学術研修部発

□ 第2回学術研修会

学術研修部は、県士会員の皆さまに向けて、年4回の理学療法技術の研鑽を目的に、研修会開催に向けた準備と運営を中心に活動しております。今年度の第2回学術研修会では、法政大学の安藤正志先生、健康科学大学の関口賢人先生、身延山病院の望月一史先生の3名の先生方に「運動器障害に対する徒手療法の基礎的背景」に関するご講義と演習を実施して頂きました。また、第20回山梨県理学療法士会学術集会内において、学術集会部と共催で、健康科学大学の高村浩司先生に「臨床運動分析：立ち座り動作」、山梨リハビリテーション病院の北山哲也先生に「フット・コアシステムの臨床応用」の研修会をして頂きました。さらに第4回学術研修会ではフィジオセンターの田舎中真由美先生による「骨盤底筋群機能不全に対する評価とアプローチ」の研修会を予定しております。これからも学術研修部では、臨床で役立つ理学療法技術を中心とした研修会を企画して参りますので、奮ってご参加いただきますよう、よろしくお願いします。

学術局学術研修部長 廣 瀬 昇

- 問い合わせ先：学術局学術研修部 廣瀬 昇
(帝京科学大学医療科学部理学療法学科内 TEL 0554-63-4411)

□ ー 東海大学付属甲府高等学校女子バレーボール部 編 ー

JCHO山梨病院 理学療法室 小林 幸一郎



スポーツ理学療法部は現在 13 チームに関わり、3つの高校女子バレーボールチームに介入していますが、その一つに昨年4月より介入した東海大甲府高校女子バレーボール部があります。このチームは強化指定を受けたばかりの若いチームで、現在2年生3人、1年生10人で活動しています。我々は2名で予防も含めたスポーツ傷害に対応していますが、バレーボールは下肢、特に膝や下腿のスポーツ傷害が多い種目であるうえに、腰や肩の痛み

を訴える選手も多く、出向けば「あっちが痛い、こっちが痛い」と故障者ばかりです。まずは痛みへの対応と同時にその予防法の教育を進めていき、いずれは選手が高いパフォーマンスでプレーできるように関わっていきたいと考えています。県内では今、勢いも知名度も上がっており、このチームから目が離せないこと間違いありません。ぜひ東海大甲府高校女子バレーボール部に注目していただき、チーム共々応援の程、よろしくお願いします！



.....

□ 第63回スポーツ理学療法勉強会

FILE ②

山梨大学医学部附属病院 遠藤 浩

第63回スポーツ理学療法勉強会は蒲田先生による組織間リリース (ISR) の講習会でした。

ISR (=Inter-Structural Release) とは組織同士を結合している疎性結合組織をリリースすることを意図した徒手的治療法で、全ての軟部組織 (=筋・腱・筋膜・神経) を対象に、指先を組織の間に滑り込ませ、皮膚・皮下組織とその深部の筋膜や骨膜との滑走性を改善、組織間の結合をリリース (解放) するものとのことです。

講習では座学の後に様々な部位に障害がある者を次々と選抜し、何例もの治療方法を拝見することができました。解剖学が未熟な私には理解しきれない現状にあり、まず解剖学を学び直す意欲、そして即効性のある治療であることにも驚かされ、自分の治療手技の一つに取り入れたい思いを駆り立たされた良い講習会となりました。

しかし、私は爪の形状が特殊であり、蒲田先生曰く「現状の指先では組織間に滑り込ませられないので、ヤスリなどで形状を整えなくてはならない」そうで残念です (笑)。



● 問い合わせ先：社会局スポーツPT部 小尾伸二

(山梨大学医学部附属病院リハビリテーション部内 TEL 055-273-9805)

福祉厚生局 地域連携部発

□ 第16回地域理学療法研修会報告

2016年11月24日、山梨大学医学部臨床大講堂にて、『明日から活かせる連携とセラピストの役割』～ケアマネジャーの視点から～というテーマで、しらゆり居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員である鈴木伸治先生にご講義頂きました。

まずケアマネジメントについて、「現在は自立支援型が推進されている。その為にはリハビリテーションが大事。リハビリの視点としては参加と活動に焦点を当て、何の為のリハビリなのか？ またサービス提供なのか？ しっかりと目的をもってほしい。また退院後も利用者さんの可能性を探してほしい」と提供してくれました。

連携については、『ネットワークは自然には生まれない』、よって意識的に構築してほしい、ぜひ顔の見える関係を作りましょうと述べていました。

地域・在宅関係のセラピス、入院セラピスト、共に活用出来る内容で非常に勉強になりました。さっそく明日から活かしていきたいと思います。

●問い合わせ先：福祉厚生局地域連携部 望月一史
(身延山病院 TEL 0556-62-1061 E-mail:chiikirenkei19@yahoo.co.jp)

福祉厚生局 医療保険部・介護保険部発

□ 医療・介護報酬に関する基礎的研修会報告

会員の皆様には、日頃より福祉厚生局の活動に関して、御理解・御協力を賜りまして誠にありがとうございます。去る平成28年10月18日に、「医療・介護報酬に関する基礎的研修会」を、山梨県立青少年センターにて無事に開催する事が出来ました。昨今の医療・介護保険制度を取り巻く情勢のためか診



療・介護報酬への関心が高く、収容人数(72名)を超過し過去最大の応募人数となりました。泣く泣く御参加をお断りさせて頂いた先生方には、この場を借りてお詫び申し上げます。研修内容につきましては、医療保険部・介護保険部の各々の部長が「各保険制度と報酬」、「平成30年度の改定に向けた情報」について御説明させて頂きました。皆様の御感想は、「研修会に参加し勉強になった。」

という回答が多数で、私どもと致しましても大変嬉しく思いました。今回の研修会により、皆様と情報を共有し理解を深めることが出来たのではないかと思います。

平成30年度は医療・介護の同時改定があります。今後も会員の皆様に少しでも情報発信ができるように活動して参りたいと思います。



●問い合わせ先：福祉厚生局医療保険部 小林泰彦 (rehabili@shiranetoku.jp)
福祉厚生局介護保険部 遠藤勇志 (endo2000@violin.ocn.ne.jp)

生涯学習局 新人教育研修部発

□ 新人教育プログラム活動報告 I

平成 28 年 8 月 8 日、新人教育プログラムが始まりました。山梨県立青少年センターにて、山梨県理学療法士会会長の小林伸一先生と山梨リハビリテーション病院の笠井雄太先生に講義をして頂きました。小林先生には理学療法に関連する労働法や医療法、リスク管理やチーム医療の重要性とそれに伴う理学療法士の責任について講義をして頂きました。笠井先生には、新人教育プログラムを含めた生涯学習の意義や理学療法の専門領域について講義をして頂き、理学療法の中にも様々な分野がある事を改めて認識しました。興味のある分野を選択し、更に知識を深めてい



たいと思いました。2つの講義から、理学療法士としての自覚を持って働く事や、患者様へより良い治療が提供出来る様に常に学習を継続していく事の重要性を実感しました。山梨県の理学療法士の一員として、常に向上心を忘れずに頑張っていきたいと思います。



山梨リハビリテーション病院 篠原 遥

●問い合わせ先：生涯学習局新人教育研修部 笠井雄太

(山梨リハビリテーション病院リハビリテーション科内 TEL 0553-26-3030)

生涯学習局 委託講習会部発

□ 2016年度 委託講習会部活動報告

委託講習会部では日本理学療法士協会主催 理学療法士講習会（応用編）の2件を開催させて頂きました。山梨リハビリテーション病院で開催された「脳卒中片麻痺者の実践的アプローチ」では、治療デモンストレーションを行いながら、脳卒中片麻痺者に対する知識と技術を3日間かけて研鑽しました。健康科学大学リハビリテーションクリニックでは「臨床動作分析」を開催し、姿勢分析や立ち上がり・歩行動作の分析を行い、クリニカルリーズニングを深める講習会となりました。



どちらの講習会も多く講師とアシスタントが関わらせていただき、講義だけでなく実技練習も多く行う事ができました。他県からの参加者と意見交換をする時間もあり、有意義な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

来年度も講習会を企画していますので、ご案内させて頂きます。詳細は順次PT協会HPに掲載されます。HPをご確認の上申込みいただくか、問い合わせ先にご連絡ください。是非、多くの先生方に参加して頂けたらと思います。

●問い合わせ先：生涯学習局委託講習会部 稲持裕太

(健康科学大学リハビリテーションクリニック E-mail: inamochi.yuta@gmail.com)

●講師：清水宏保さん（元 スピードスケート選手）

●テーマ：医療とスポーツの融合を目指して

●対象：どなたでもご参加いただけます

当日は無料で口コモチェックが受けられます

●日時：平成29年3月19日（日） 14:00～（13:30開場）

●会場：笛吹市スコレーセンター 集会室（笛吹市石和町広瀬 626-1）

●問い合わせ先：企画局公開講座部



上田（恵信梨北リハビリテーション病院 リハビリテーション室内 TEL 0551-28-8821）

*会員の皆様には、後日、案内文を送付させていただきます。多くの皆様のご参加を宜しくお願い申し上げます。

清水宏保さん プロフィール

幼稚園からスケートを始め、18歳でワールドカップ初優勝。以来、世界のスピードスケート短距離界の第一人者として活躍。長野オリンピックで金・銅メダル、ソルトレークシティオリンピックで銀メダルを獲得。

スポーツから医学まで幅広い知識を持ち、現在はテレビ、ラジオ、講演などで活躍。

❖ 職歴・経歴

1974年生まれ。北海道出身。

幼稚園からスケートを始める。小さい頃から喘息に苦しむが徹底した治療・管理のもと、スピードスケート短距離界の第一人者として活躍。2010年引退。

現在は、札幌市内に治療院と高齢者のリハビリ施設を運営する傍ら、2015年4月より弘前大学大学院に入学し、医学博士号取得を目指している。

2017冬期アジア札幌大会 PR アンバサダーに就任。

❖ 主な戦績

500m 34 秒 32 の世界記録（当時）を樹立

長野オリンピック（1998年）：500m金メダル、1000m銅メダル

ソルトレークシティオリンピック（2002年）：500m銀メダル

世界短距離別選手権：金メダル 5、銀メダル 3、銅メダル 2

❖ 著 書

『人生の金メダリストになる「準備力」— 成功するルーティーンには2つのタイプがある』（講談社）

『金メダリストが考えた 世界一の腰痛メソッド』（マガジンハウス）

『プレッシャーを味方にする心の持ち方』（扶桑社）

『ぜんそくカーぜんそくに勝つ 100 の新常識』（ぴあ）

委託講習会部 講習会のお知らせ

① 臨床運動分析

日 付：2017/6/10(土)～2017/6/11(日)
会 場：健康科学大学リハビリテーションクリニック

② 脳卒中片麻痺者の実践的アプローチ

日 付：2017/10/13(金)～2017/10/15(日)
会 場：山梨リハビリテーション病院

●問い合わせ先：生涯学習局委託講習会部 稲持裕太
(健康科学大学リハビリテーションクリニック E-mail: inamochi.yuta@gmail.com)

事務管理局より

●各種申請手続きについて●

基本的に WEB での申請になります。ただし、WEB 環境がない等、紙面申請しか実施できない会員様は、協会事務局へご連絡頂きますようお願い致します。協会から個別に用紙が届きます。

●慶弔申請の窓口は事務管理局です●

■慶弔事項（一親等及び配偶者）が発生しましたら、事務管理局まで速やかにご連絡をお願いします。

■公益財団法人日本理学療法士協会

弔事への対応ならびに見舞金の支給に関する規定について

協会会員に弔事および被害があったときの弔意行動および見舞金について定めた規定があります。詳細は県士会ホームページをご覧ください。

●勧誘電話についてのお知らせ●

怪しい勧誘電話にご注意ください。協会からの文書を士会 HP に掲載してありますので、御確認ください。

●財務部より●

会費の納入はお済みですか？ 会費が未納の方は早急に納入をお願いします。

会費納入について、詳細は日本理学療法士協会事務局にお問い合わせください。

日本理学療法士協会、山梨県理学療法士会会費徴収は、原則として「楽天カード」にて行われます。お早めに「楽天カード（日本理学療法士協会会費徴収用）」の発行をお願いいたします。お手数ですが円滑な士会運営の為、会員みなさまのご協力をお願い致します。

●問い合わせ先：事務管理局 有泉 ariizumi-achi@pref.yamanashi.lg.jp



～途絶えることのない
バトンを君に～

『リレーエッセイ』とは・・・

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい(ただし、誹謗や中傷の内容は除外します)ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

以前のSupportersにあった「会員のひろば」との違いは、会員同士の輪を広げるということで、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

Part 31-1

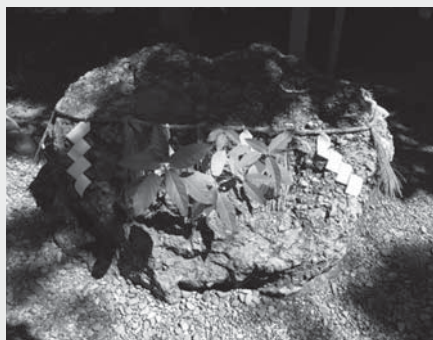
赤坂台病院 水上 卓

本年度より赤坂台病院に勤務しております水上卓と申します。この機会をお借りしまして赤坂台病院のご紹介を少し。

当院は甲斐市ドラゴンパークの側に位置し、一般病棟48床、療養病棟52床、介護サービスでは訪問介護、訪問看護、デイサービス、またサービス付高齢者住宅と、地域に根差した医療・介護の提供をしています。皆様からは療養イメージ?! が強い病院かと思いますが、本年度よりリハビリテーション室を稼働し、医療から在宅への橋渡しができるよう「一生懸命営業中」です。対象疾患は多岐に亘るため、リハビリテーションの根底が問われることが多く、この仕事の奥深さを改めて感じる毎日です。

浅学菲才な私ですが、新人の時に上司から頂いた「目の前の患者さんから逃げるな」を胸に、この新たなステージで精進していきたいと思っています。

写真は国家にも唄われる「さざれ石」です。職能が求められる昨今、山梨県士会みんなで力を合わせ巖のような大きな力となれますように。



それでは『白根徳洲会病院の市川普隆先生』へバトンを渡します。



原稿を募集しています

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマ等は自由です。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など

2. 各種お知らせ事項など 3. 体験記など 4. その他

●問い合わせ先：広報局 会報部 古澤淳一
塩山市民病院 TEL: 0553-32-5111 FAX: 0553-32-5115
E-mail: yamanashikaihoubu@yahoo.co.jp



内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

※第150号発行は、
2017年9月を予定しています。

原稿の締め切りは、

7月下旬です。

Part 31-2

加納岩総合病院 中澤 祐 字

皆さんこんにちは。石和共立病院の保坂 陽先生からバトンを頂いた、加納岩総合病院の中澤祐字です。

最近、御朱印集めを趣味にしており、旅行に行った際には神社仏閣を回っています。社会医療法人加納岩では、年1回共済会旅行として一泊の職員旅行があります。昨年10月16・17日には愛知・三重に行き伊勢神宮を参拝して参りました。1日目は名古屋観光、2日目には伊勢神宮を回るというルートでした。

伊勢神宮は「お伊勢さん」「大神宮さん」と親しく呼ばれ、正式には「神宮」と言います。神宮には皇室ご先祖様の神を仰ぎ、私たち国民の大御祖神として崇敬を集める天照大神をお祀りする内宮があります。また、衣食住を始め産業の守り神である豊受大御神をお祀りする外宮があります。14所の別宮、43所の摂社、24所の末社、42所の所管社があり、これら125の宮社全てを含めて神宮と言うそうです。実際に行けたのは内宮のみでしたが、とても神秘的で魅力を感じる場所でした。機会があれば外宮にも行ってみたいと思います。みなさんも行ってみてはいかがでしょうか。

今回は、『甲州リハビリテーション病院の山内健太さん』にお願いしてありますので
よろしくお願い申し上げます。

編集後記

この冬、山梨は例年よりも1か月程早く11月24日に初雪、甲府では50年ぶりとなる11月に積雪となりました。本号が皆様のお手元に届く頃は厳しい寒さになっていると思われませんが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？

本号では第20回山梨県理学療法士会学術集会を特集とさせていただきました。本年度第二号の会報誌も大変お忙しい中、会員の皆様のご協力の下、発行することができました。ご協力をいただきました先生方には心より感謝申し上げます。今後とも会報誌発行の際は引き続きご協力を宜しくお願い致します。

会員の皆様におかれましては厳しい寒さに体調を崩さぬようお気を付け下さい。

古澤淳一



- 発 行 ● 一般社団法人 山梨県理学療法士会
- 代 表 ● 小林 伸一
- 企画・校正 ● 古澤 淳一 菊池 悟 澤田 和文 中島 孝 長田 徹也
- 編集・印刷 ● プリントオフィス ナカガワ
- 会報部 ● 〒404-0037 山梨県甲州市塩山西広門田 433-1
公益財団法人 山梨厚生会 塩山市民病院
TEL: 0553-32-5111 FAX: 0553-32-5115
E-mail: yamanashikaihoubu@yahoo.co.jp